

信州大学工学部(環境 ISO14001)


第14回市民公開講座

木を植えよう、森を育てよう

日時: 2009年11月14日(土) 13:00— 場所: 信州大学工学部200番教室



『木を植えた男』の舞台を提供した高原。50年前の高原には、中央の植の大木しか生えていなかった。

 生命は海で生まれ、あるものは海で、またあるものは陸に上がって、様々な生態系を形作り、現在の地球を形成しています。そのため、海は生命の母といわれています。しかし、森をなくした海は、生命の住めない海へと変貌していくことも、良く知られるところとなりました。もちろん、温室効果ガス(CO₂)削減の観点から、木が大切であることは言うまでもありません。

信州大学工学部環境 ISO 市民公開講座は、平成14年の第1回以来、今回で14回を数えることとなりました。これまでは、環境ホルモン、水質・大気汚染、アスベスト、ゴミ問題などをテーマとして取り上げてきましたが、今回は、生命の源である海の栄養源にして、地球の温暖化を減速させる鍵ともなる木・森をテーマとしました。木を植え、大切に育てる、そのことの積み重ねとしての森が、あるいはその行為を支えるところが、私達の豊かな未来へとつながるのではないのでしょうか。本講座では、私達の身近にある木・森を通して環境を考えようと思います。

講座1 森林と文学 —ジャン・ジオノの『木を植えた男』創作の鍵— 山本先生

森林の重要性をいち早く指摘した『木を植えた男』はどのように創作されたのだろうか? 作者ジオノが慣れ親しんでいたプロヴァンスの高原の写真を見ていただきながら、私の仮説を提示し、ジオノ文学と自然現象との濃密な関わりを紹介します。

講座2 暮らしを守る森林 北原先生

森林は私たちの暮らしにいろいろ役立っています。例えば、森林は緑のダムとも言われ、きれいで安定した水を供給していますし、土の侵食や山崩れも防いでいます。その他、森林には災害防止や環境保全など実に数多くの機能があります。講演ではこれらの機能を解説し、よりよい森林づくりを考えていきます。

講座3 企業による森林保全活動 —八十二銀行の事例— 坂本様

企業が森林整備活動に取り組む意義、求められる役割、効果などを八十二銀行の実際の環境保全・森林整備活動の事例を通じてご説明します。また、森林整備活動の初心者でも参加できる活動もご紹介します。

参加料無料・事前申し込み不要

講座1 13:00—

山本省先生 (やまもと・さとる)

信州大学全学教育機構

「森林と文学 —ジャン・ジオノの『木を植えた男』創作の鍵—」

講座2 14:00—

北原曜先生 (きたはら・ひかる)

農学部森林科学科森林環境学コース

「暮らしを守る森林」

講座3 15:00—

坂本智徳様 (さかもと・ともり)

八十二銀行総務部環境室

パネル討論 16:00—

コーディネーター

松井一明様 (まつい・かずあき)

信濃毎日新聞編集局報道部

お問い合わせ先

信州大学工学部 ISO 事務局 笠井利幸

TEL:026-269-5551

E-mail:ems@shinshu-u.ac.jp



主催: 信州大学工学部環境委員会

共催: 八十二銀行、信濃毎日新聞 / 後援: 信州大学地域共同研究センター